

# Kaho Aoki

—わたしがわたしであることを証明するもの—

作・青木香帆





# contents

- 自己紹介
- サークル活動
  - フリーペーパーサークルN
  - B.D.C演劇映画放送研究会
- ゼミ雑誌編集長
  - 2年『SKETCH』
  - 3年『Beyond』
- インターンシップ
  - GAKUSYOKU
- 文芸学科も思いを伝えてみたかった展
- 勉強してますか？
- 10年度、どうしたいのか？
- あとがき



# 青木 香帆

-Kaho Aoki-



生年月日：1991年7月26日

星座：しし座

血液型：O型

身長：157cm

性別：女

性格：まじめでせっかち。

趣味・特技：

趣味 [お菓子作り]

特技 [外郎売り]

マイブーム：食べ歩き

部活・サークル

中高：演劇部

大学：フリーペーパーサークルN

B.D.C 演劇映画放送研究会

日本大学芸術学部文芸学科

メディアデザインゼミ（講師：高橋幸治）

愛してやまない……

愛でたくて愛でたくて

震える系のもろもろ…！

食

ラーメン  
オムライス  
雪苺娘

アニメ

輪るピングドラム  
カードキャプターさくら  
あずきちゃん

色

生成り  
えんじ

歌

小島麻由美  
RADWIMPS

有名人

ラーメンズ  
片桐仁さん

座右の銘

人生は全てネタ

スウィーニートッド

映画



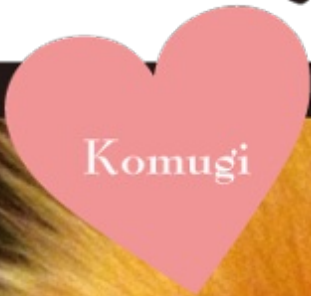


愛すべきお犬さま…

ばか



ポメラニアンが3匹♥  
生活の癒しです。もっふもふです…(//´ロ`//)



# ハロウィン活動

大学生！！  
といえば……





# フリーペーパーサークル N



目芸生に有意義な情報を届けるため、  
授業のある期間中毎月発行！

学食・教務課・文芸棟など様々な場  
所で配布しているフリーペーパー！

# B.D.C 演劇映画放送研究会

映画学科・演劇学科・放送学科、  
それぞれの専門分野を学ぶ学生  
が集まる学校故のサークル。

映画撮ったり、  
演劇やったり、

アクティブクリエイティブサークル



# サークルN

日芸生にとって有意義な情報をお届けする月刊マガジン『N』。毎月発行する為、週に一度ミーティングを行います。月の初めは企画会議！ 部員それぞれが自身のやりたい企画を企画書におとして、部員に対してプレゼンテーションします。見事プレゼンを勝ち抜いた企画は、チームに分かれてスケジュールを組みます。取材日、場所、人数などの詳細を決め、グラビア撮影ではモデル探しを。誌面に使用される写真はN専属カメラマン（写真学科生）が担当。毎月発行と同時になくなってしまうほどの人気ぶりです。

ちなみに資金は日芸周辺のお店、広告掲載したいサークルなどからの広告費と部費で成り立っています。基本的に万年貧乏サークルなので、芸術祭では屋台をやって紙代を稼ぎます……。

## \*こぼれバナシ

実は私が3年生になって直ぐのこと、編集長兼部長だった友人が突然サークルを辞めてしまいました。引退間近にどうして……?と思うのと同じに、既に企画終了間近だったこともあり、記事の発行が滞るなど関係者各位に大変な迷惑をかけ、ひたすら謝る日々が続いたことがあります。副部長に連絡し、臨時会議を行ってスケジュール調整、企画練り直しを図ることなどでなんとか持ち直しました。人間こんなにも簡単に責任放棄出来ちゃうんだ……。と不安になる一方で、こうはなるまい。と自分自身を見直すきっかけにもなった出来事です。



# フリーペーパー

(▼の画像をクリックすると過去の作品集【N篇】にジャンプします。)



# 画放送研究会

演劇・映画・放送と3つも楽しめる欲張りなサークル。私は中高演劇部だったので、演劇を続けたいなあという淡い思いから入部。しかしその実態は……映画学科が全体の8割というほぼ映画サークルでした。数ある映画サークルの中でも学校唯一の公認部会の為、機材が部費だけで借りられるなんとも嬉しい特典付き！ そりゃあ映画学科はウハウホですね。

しかし横の繋がりがほとんどない日芸にとって、サークルを通しての他学科交流は貴重です。やりたかった演劇も出来たし、沢山のひと知り合い、友人には大変恵まれました。結果、文芸学科の私もウハウホですね。

## \*こぼれバナシ

2年生の時、芸術祭（文化祭）のサークル副責任者になりました。この時部員数が4学年合わせて80人にはいたであろうBDC。毎週会議があり、その時に提出する為の書類作りはとても楽しいだけのものではありませんでした。当時、フリーペーパーサークルと掛け持ち、後述するゼミ雑誌編集長、アルバイト……と非常に目紛しい日々を過ごしました。それでも続けられたのは共にこの時期を乗り越えた責任者と会計を担当した友人と、陰ながらしっかりと支えてくれた先輩方のおかげだと思っています。

芸術祭が終る頃には何ものにも代え難い絆が生まれたと思います。



# B. D. C 演劇映

(▼の画像を**クリック**すると演劇予告編動画にジャンプします。)



「私たちの住む箱は、思ったよりも小さい。」

2011年5月21日(土)  
日本大学 術学部 新入生歓迎行事

役者として参加しました！

## 自分自身で**目標**を設定し、その目標を**達成**するために行ったこと

文芸学科では、毎年各ゼミで「ゼミ雑誌」と呼ばれる一冊の本を作ります。中身は創作・評論・取材など多岐に渡り、装幀も決められた予算内であれば規定はなく、学生が自由に制作出来ます。しかし、何年間も皆同じフォーマットで制作してしまうので、面白味がなく、無料配布にも関わらず多くの場合は捌けずに在庫処分にも困る始末でした。そこで私は、所属していたフリーペーパーサークルでの経験を活かそうと、2年次のゼミで編集委員に立候補しました。編集長として現状を打破すべく、人々が手に取りたくなるような魅力的なゼミ雑誌を制作しよう【ゼミ雑誌の完全配布と、金のたまご文学賞の受賞】という明確な**目標**を設定しました。

1

**過**去のゼミ雑誌や販売されている雑誌から、問題点と優れた点を分析しました。分析結果をもとに「視覚で楽しむ」ことを視野に入れた新しい形の雑誌をゼミのメンバーにプレゼンテーションすることで、方向性への共通認識を持たせました。制作段階に入ると、企画書フォーマットの作成や綿密なスケジュール管理、技術面での補佐を行い、メンバーが初めての雑誌制作に戸惑わないように配慮しました。

理由としては、まず問題点を究明しなくては魅力的な雑誌は出来ないと思ったからです。また、共通認識を持つことで問題が生じた際に多くの意見を取り入れることが出来る為、独りよがりならず、1つの目標に向けて協力出来ると考えたからです。

2

**結果**として、目標であった【金のたまご文学賞】の装丁賞を受賞すること、雑誌発行限度数の200部を陳列した即日完全配布することが出来ました。また、所属していたゼミの次年度希望者数も倍になり、非常に注目度の高いゼミと話題になりました。

私はこの経験から、目標を設定し、それを成し遂げる達成感。そして、大勢の人に向けて自身の思いを伝えること、見る人の心を「ワクワク」させる面白いものを創造することの喜びを感じました。同時に、複数の人々をまとめるリーダーとしての責任感を身につけ、周囲からの信頼を得ることが出来ました。今後も、現状に満足せず常に幅広い視野をもって行動していきたいです。

3



# ゼミ雑誌

(▼の画像をクリックすると過去の作品集【SKETCH 篇】にジャンプします。)



平成 23 年度制作

窪田ゼミ II 『SKETCH』 (編集長)

平成 24 年度 金のたまご文学賞 装幀部門 受賞

前述したように、ゼミ雑誌は予算以外は自由です。つまり、「形に残す事」さえ出来れば何でもいいんじゃないか？ という考えの元、私の所属する高橋ゼミでは過去3年間に渡りiPhoneアプリを制作していました。

1年生は入学と同時にゼミをランダムに振り分けられ、2年生からゼミの選択が可能。3年生になってまた選択（教員は学年毎にはらつきがある）3・4年生は同じ教授の元で学びます。私は高橋ゼミに先輩がいたこともあり、その授業内容に興味湧き、「新しいことがやってみたい！」という思いから決定。

「今年はアプリはやらないよ。」というので何をやるのだろうか？ と思っていたのですが、それも企画書から各自が考えてくることに……。

なんとか決まったのが【越境ジエネレーション】というグループ名。紙媒体を軸にYouTubeやUstreamなどの動画媒体を駆使してクロスメディアを実践しよう！ というもの。動画媒体と別にSNSやブログを併用し、どうしたら顔の見えない誰かに対して情報を伝達出来るのかを実践しています。テーマは【枠を越える】。私自身はCGMを実感する為、昔懐かしいプリクラ手帳などのデコレーションなど「既製品に+α」を行っています。

今回は主軸となる紙媒体の編集長を行いました。納期ギリギリまで編集委員が決まらなかつたのでかなり急速に作ったものですが、撮影の為に集ったり、ゼミ生と濃密な時間を共有出来ました。



# ゼミ雑誌



(▲の画像をクリックすると過去の作品集【Beyond篇】にジャンプします。  
※アップロード者は別の人です。)

平成 24 年度制作  
高橋幸治ゼミⅢ 『Beyond』(編集長)

(▼の画像をクリックすると過去の作品集【Sailing vol.2 篇】にジャンプします。)



Sailing vol.2 編集長

、本気がいい。



# GAKUSYOKU

【学生と企業のハブ的存在を目指した企業】で2ヶ月間のインターンシップを経験しました。学生が主体となって動く会社で、現在企業自体は買収されて別会社となりましたが、そこで培われた多くの人との出会いは何ものにも代え難い財産だと思います。

起業家のインタビューや講演会を通して、「働くことの意味とは？」について考え、成長を実感できました。

私は講演会のお手伝い及びフリーペーパー制作の編集長を担当しました。

どうせやるなら



## 文芸学科も思いを伝えてみたかった展

**\*「思いを伝える」って、大切です。**

有志の3人組で開催した、空間を使った「文芸学科」の展示会。元々は大宮エリーさんの展示会に影響されて企てられたもの。

芸術祭の行われた3日間、1つの教室を貸し切って詩や作文、ラブレターを展示。自作のアナグラムマシンや指サイズのツイスターゲームで遊んでもらったり。風船を割って、中から言葉が出てきたり。芸術学部の中でも抜きん出て地味な文芸学科だけど、文芸学科だからこそ出来る「思いの伝え方」ってきつとあるはず。そんな劣等感と希望から生まれたこの企画が、大きな反響を呼び連日お客さんが絶えることはありませんでした。

詩はパネルにして壁に。

作文は手書きで。

ラブレターは可愛らしく箱に。

多くの文芸学科生に作品協力を依頼し、当日も沢山の友人が設置やシフトを手伝ってくれました。

「伝えたい思い」を軸に、「やりたい」を形に出来たこの企画。知らない人との沢山の出会いや、後輩から「私もやりたいです!」と言ってもらえた喜び。思いを伝えるって、大切ですね。

も伝え(みた)かった展→

presented by

NAS







文芸学科を  心い



(▼の画像をクリックすると過去の作品集【ジャーナリズム実習篇】にジャンプします。)



『おかしでつくる 至福のひととき』  
(ジャーナリズム実習1)

大学1年 制作



# 勉強はしてたの…？

楽しく学生生活を送ってきた私ですが、あんた遊んでばっかじゃないの？と思われな  
い為にしっかりと勉強についても触れたい  
と思います。自分で言うのもアレですが、私  
とても計画的な人間です。そして少し心配性。  
当然授業はフル単位取得、出席率も◎です。  
文芸学科なので、小説やエッセイを書く授業  
も、何かを論じる課題も多いのですが、私が  
好きなのはやはり実習です。

右の雑誌は1年生の時に受けていたジャー  
ナリズム実習で制作した雑誌。お菓子のレシ  
ピ集を作ろう！と、実際にお菓子を作りな  
がら写真撮影をして、編集しました。

また、正式な学校行事などでアルバイトを  
依頼されることもあるなど、教授から厚い信  
頼を寄せられています。



## 『きせかえ』

2年生のゼミで、ゼミ雑誌と別に個人課題だ  
ったのが絵本づくり。大好きだった布絵本を制作。  
剥がしたり付けたりできる、大人のための、遊  
べる布絵本をつくりました。



# 10年後

## 私は、どうしたいのだろうか？

「ものづくり」が好きだった。

何かを生み出す瞬間の、あの確かなワクワク感。

自己完結じゃ、つまらない。

誰かに伝えて、その人が笑顔になってくれたら、それはもう史上の喜び。

でも、

自分が良いだけの表現じゃ誰かを笑顔になんて出来ない。

そうだ。

編集をしなくちゃいけない。

見る人が見やすいように。

見たくなるように。

必要な情報が、きちんと伝わるように。

そうだ。

それが出来たら発信出来る。

それが出来て初めて発信が出来る。

【伝えたい人】の心にちゃんと、響くように。

そんな人に私はなりたい。



努力が報われるかどうかは、わからない。  
でも、努力しないと何も始まらない。

# DOCUMENTARY OF Kaho Aoki

NO FLOWER WITHOUT RAIN

少女は涙の後に何を見る？



# あとかぎ

ここまで読んで頂き、本当に有り難うございました。

若干自己主張が強すぎな気もしますが、  
私が今までどう考え、どう過ごしてきたのか。  
少しでも、私という人間に興味をもってもらえたら……  
という思いを込めて、今回このような電子書籍を作らせて頂きました。

大学生活は本当に充実していて、

それは周囲に恵まれているからだと思えます。

正直少しネガティブな、自己否定的な面のある私ですが、  
素敵な人に出会え、  
その人達が傍にいてくれることの喜び。

類は友を呼ぶという言葉があるように、  
私自身がどうしてもない人間なら今の環境はないと考えています。

私が今、私でいられること。

そんな当たり前に、精一杯の感謝を。

青木香帆



# Kaho Aoki

～わたしがわたしであることを証明するもの～

平成 25 年度 個人制作

発行日 2013 年 2 月 15 日

発行人 青木香帆

編集人 青木香帆

発行所 株式会社 UPUB

